

点 字 体 験

講師：視覚障害のある方
点訳ボランティア など

目 的

視覚障害のある方の生活を理解し、伝達方法の一つである点字の体験をする。

時 間

2時間 （40名位まで）

準備物

点字版・点字用紙・点字一覧表

導入・事前学習

「目が見えないってどんなこと？」

- ◎目が見えない人が情報を得るためにはどんな方法があるだろう
- ◎身の周りにある目が見えない人のための工夫はどんなものがあるだろう
- ◎目が見えない人の一日を想像してみましょう
ex. 料理、食事、着替え、道に迷った時
- ◎もし自分の目が見えないとして、覚えておきたいことがある時、どうやって覚えておきますか？

講 話

視覚障害のある人の生活について

視覚障害について 目が不自由な人もさまざま（弱視・全盲・視野狭窄・色盲）

体 験

- ① 点字についての説明
- ② 点字を打ってみよう
- ③ 目を閉じたりアイマスクをして読んでみよう

まとめ

感想を出し合う

点字で打ったものを実際に視覚障害のある人に読んでもらう

発 展

～調べてみよう～

- ◎身近にある点訳ボランティアグループや視覚障害のある人との交流の場など
- ◎街の中で視覚障害のある人に配慮がされているものを探してみよう
- ◎図書館にある点字図書について調べよう

～考えてみよう～

- ◎生活の中で点字が必要な場面を考えてみよう
- ◎他にどんなものがあったらいいだろうか
- ◎すべての視覚障害のある人が点字を読むことができるのだろうか
- ◎視覚障害のある人はいつ、どうやって点字を学ぶのだろうか
- ◎街で視覚障害のある人と出会ったらどうするか考えてみよう
- ◎災害時に困ることは何だろうか
- ◎自分たちにできることは何だろうか

～学習を続けていこう～

- ◎点字を継続して学習していく
- ◎盲人情報文化センターなどの情報施設の見学

～交流しよう～

- ◎盲学校との交流
 - ◎視覚障害のある人と卓球、オセロなどのゲームをする
- * 少しの工夫があれば一緒に楽しむことができるというのがわかります

様々な仕事や趣味や持っている視覚障害のある方がいることを知ることによって「視覚障害者」という抽象的なとらえかたから「〇〇さん」という個別化した見方になってくるかもしれません。「障害者は〇〇」「目が見えない人は〇〇」などと一概にまとめることはできないことに気づきます。誰もが自分たちと同じく、みんなそれぞれが考えていること・望んでいることは違うということに気づきます。

限られた授業時間の中では点字そのものの技術を習得することは難しいかも知れません。またせっかく点字の技術を覚えても、日常的に点字を使っている視覚障害のある方との交流に役立てなければ意味がありません。何のために点字を体験するのかをはっきりさせ、本格的に点字の技術を学ぶのであれば体験後に継続して学ぶという方法もあります。